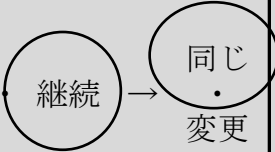
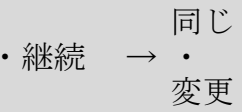


目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①相談支援体制の充実を図る ②相談支援専門員の質の向上	◇定期会議 ・基幹相談支援センター巡回相談報告 ・困難ケース共有・検討 ・地域移行・地域定着の把握、意見交換 ・社会資源等の情報共有 ・事例検討会(野中式) ・スキルアップ研修(サービス等利用計画作成)	P. 52	①第1回開催 6月20日 【参加者 22名】 ②第2回開催 9月19日 【参加者 19名】	①会議では、困難ケースは出なかった。基幹相談支援センターの巡回訪問時に確認していく。 あさひ学園と、相談支援専門員との連携を再度確認できた。 ②事業所間のケース引継ぎ方法や緊急時受け入れについて、相談員の代筆について話し合いや共有を行うことができた。	終了 	今後も定期会議を行い、情報共有やケース検討を行うことで、相談員が困難ケースを抱え込まないようにしていく。また、スキルアップにつなげていく。
①相談先の周知	◇関係機関での出前講座等の実施 ・小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会での相談先説明 6地区(小牧南部、小牧中部、小牧西部、味噌岡、篠岡、北里地区)	P. 53	①西部地区民生委員・児童委員連絡協議会への出前講座の開催 1回目8月2日 聴覚障害や、視覚障害の方への関わり方についての講話を行った。 【参加者 21名】 2回目3月予定	西部地区民生委員・児童委員連絡協議会で出前講座を行い、障害者への理解に繋げる機会になった。 他5地区の民生委員・児童委員連絡協議会には、相談先の説明はできていない。	終了 	

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①地域課題を把握し 解決を目指す	◇アドバイザーとして連絡会（こども連絡会、日中活動系連絡会・就労支援連絡会）に参加し、地域課題の抽出や提案を行うため、他の関係機関・事業所と情報交換や課題の聞き取り	P. 53	こども連絡会 ①全体会出席 6月16日開催 ②事業所部会出席 7月18日開催 ③日中活動系連絡会・就労支援連絡会合同連絡会出席 6月5日開催	①学校側、事業所側も人材不足。事業所への引き渡しについて、責任が問われることもあり、ボランティアでの対応も難しいなどの意見があった。 医療的ケア児の兄弟、姉妹に関するの育児についての課題が上がった。 ②相談員がいないケースについて、相談支援事業所連絡会で話し合ったが、結論はでなかった。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	◇相談支援事業所連絡会で検討すべき課題を共有し、課題解決に向けて検討		緊急受け入れ先を探すことが、極めて困難であることを共有した。	地域課題として検討が必要。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	多くの相談員が課題と感じている。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①市内の相談支援専門員を増やす	◇機能強化型(継続)サービス利用支援費の算定について検討	P. 53	「特定・障害児相談支援の機能強化型サービス利用支援費算定に係る複数事業所による協働体制構築の検討会」の開催 7月13日 【参加者 11名】 8月30日 【参加者 13名】 9月14日 【参加者 13名】	参加した事業所の中で、2事業所が前向きに検討していくことになった。この検討会については、3回で終了とする。	終了・継続 → 同じ・変更	今後は、機能強化型を検討する2事業所と、ふれあい総合相談支援センターにて具体的な協議を進めていく。
①卒業後の多様な進路の確保	◇当事者・保護者を対象に、特別支援学校卒業後の進路先となる事業所紹介 ◇特別支援学校と進路の情報共有	P. 42	保護者向け進路説明会 パネルディスカッションの開催 8月7日 保護者参加者 【参加者 18名】 事業所パネラー 【6事業所】 ブース 【12事業所】	事前に保護者から取ったアンケートを元に、パネルディスカッションの内容を考えたこともあり、「聞きたいことが聞けて良かった」という意見が多くあった。特別支援学校の教員にも呼びかけを行ったが、参加は無かった。	終了・継続 → 同じ・変更	当日参加した保護者から参加後のアンケートより、来年度の開催については、希望が3名であったことから、頻度について検討していく。特別支援学校の教員と進路の情報共有については、今までの関わりの中で個別相談で対応ができていると思われる。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更